

参考資料編

1. 都市計画マスタープランの策定経緯



2. 都市計画マスタープラン改定の検討体制

(1) 小平市都市計画マスタープラン見直し検討委員会

①委員構成

区分	氏名	構成	所属
委員長	松本 暢子	学識経験者	大妻女子大学 社会情報学部 教授
副委員長	羽貝 正美		東京経済大学 現代法学部 教授
委員	市川 徹	まちづくりに 関係する団体	特定非営利活動法人アジア都市環境学会
	出竿 章雄		社会福祉法人小平市社会福祉協議会
	窪田 文一		東京むさし農業協同組合小平支店
	鈴木 庸夫		小平商工会
	市川 健寿	市民公募委員	
	菅野 裕士		
	西村 幸格		
	樋口 智子		

(任期：平成26年12月1日から平成29年3月31日まで・敬称略)

②開催経過

日程		主な報告・検討事項
事前 学習会	平成26年11月10日(月)	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介 都市計画マスタープランに関する解説 市内まち巡り
第1回	平成26年12月1日(月)	<ul style="list-style-type: none"> 全体スケジュールと現在の取り組み状況について 市民アンケート調査の実施、回収状況(速報)について 市民参加の進め方について マスタープランの見直しの視点について
第2回	平成27年3月10日(火)	<ul style="list-style-type: none"> 市民アンケート調査結果について まちづくりカフェの実施について 市民モニターの実施について マスタープラン全体構想 構成見直し案について
第3回	平成27年6月18日(木)	<ul style="list-style-type: none"> まちづくりサロン～PRパネル展～について 小平市の今後のまちづくりの主な課題について 今後の検討にあたり深めたいテーマについて
第4回	平成27年9月14日(月)	<ul style="list-style-type: none"> まちづくりカフェについて まちづくりフォーラムについて 平成27年度市民アンケート調査の実施について マスタープラン全体構想(前半)について
第5回	平成27年11月5日(木)	<ul style="list-style-type: none"> まちづくりカフェについて 全体構想特別委員会について 平成27年度市民アンケート調査の実施について 児童・生徒からの意見収集について マスタープラン全体構想について
第6回	平成28年1月15日(金)	<ul style="list-style-type: none"> まちづくりカフェについて 全体構想特別委員会について 児童・生徒からの意見収集について 都市計画マスタープラン全体構想について 地域別構想検討の進め方について

日 程		主な報告・検討事項
第7回	平成28年3月10日(木)	<ul style="list-style-type: none"> まちづくりカフェについて 全体構想特別委員会について 全体構想中間まとめについて 地域別構想の役割及び地域割の考え方について
第8回	平成28年5月16日(月)	<ul style="list-style-type: none"> 全体構想特別委員会について マスタープラン改定中間まとめに関する意見募集について 地域別構想について
第9回	平成28年7月14日(木)	<ul style="list-style-type: none"> まちづくりサロン〈地域別〉の実施について マスタープラン地域別構想について(これまで出された意見・キーワードの整理/西地域/中央地域/東地域)
第10回	平成28年10月3日(月)	<ul style="list-style-type: none"> 全体構想について 全体構想と実現化に向けた取組(第3部)について 地域別構想(第4部)について 市民生活に身近な地区のまちづくりの推進に向けて(第5部)と都市計画マスタープランの推進に向けて(第6部)について
第11回	平成28年11月15日(火)	<ul style="list-style-type: none"> 全体構想について 都市計画マスタープラン素案について
第12回	平成29年2月3日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 市民意見公募手続(パブリックコメント)の結果について

(2) 小平市都市計画マスタープラン全体構想特別委員会

①開催経過

開催日	件 名
平成27年6月26日(金)	小平市都市計画マスタープラン全体構想の改定について《調査》 (その1)
平成27年10月2日(金)	〃 (その2)
平成27年11月9日(月)	〃 (その3)
平成28年1月28日(木)	〃 (その4)
平成28年4月14日(木)	〃 (その5)
平成28年7月22日(金)	〃 (その6)
平成28年11月25日(金)	〃 (その7)
平成29年1月13日(金)	〃 (その8)
平成29年2月28日(火)	市議会本会議に「全体構想」(第3部第1章)を議案提出
平成29年3月13日(月)	小平市都市計画マスタープラン全体構想の改定について《審査》
平成29年3月28日(火)	市議会本会議で「全体構想」(第3部第1章)を議決

(3) 小平市都市計画マスタープラン関係課連絡会

①委員構成

会 長	都市開発部長		
副会長	都市開発部都市計画課長		
委 員	企画政策部	政策課長	行政経営課長
	総務部	防災危機管理課長	地域安全課長
	地域振興部	産業振興課長	
	子ども家庭部	子育て支援課長	
	健康福祉部	生活支援課長	健康推進課長(第9回から)
	環境部	環境政策課長	資源循環課長
		水と緑と公園課長	下水道課長
	都市開発部	公共交通課長	地域整備支援課長
		道路課長	都市計画道路担当課長
		交通対策課長	建築担当課長(第10回から)
教育部	教育総務課長		

②開催経過

回	日 程
第1回	平成26年8月29日(金)
第2回	平成26年12月26日(金)
第3回	平成27年3月9日(月)
第4回	平成27年5月28日(木)
第5回	平成27年8月31日(月)
第6回	平成27年10月21日(水)
第7回	平成28年1月8日(金)
第8回	平成28年5月10日(火)
第9回	平成28年7月11日(月)
第10回	平成28年9月21日(水)

※上記のほか、日程の都合で会議が開催できない場合は、書面による関係課への照会を実施。

3. 市民参加の取組

(1) 市民アンケート調査

①平成 26 年度

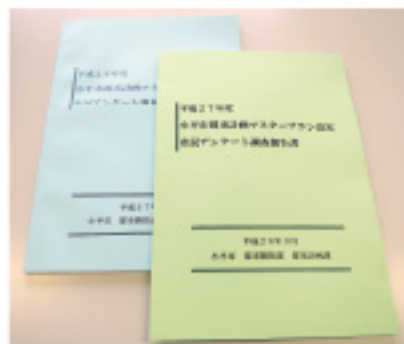
期 間：平成26年10月30日～12月1日

調査対象者：2,000件

市内に住所を有する18歳以上の市民

10歳毎の年齢別人口割合に応じて無作為抽出

有 効 票：594件 (29.7%)



市民アンケート調査報告書

②平成 27 年度

期 間：平成27年8月22日～9月24日

調査対象者：2,000件

市内に住所を有する18歳以上の市民

10歳毎の年齢別及び町丁毎の人口割合に応じて無作為抽出

有 効 票：569件 (28.5%)

※まちづくりカフェ参加希望者、市民モニター登録者、まちづくりフォーラム参加者からの回収数59件を加えた628件をサンプル数としています。

(2) まちづくりカフェ

小平市都市計画マスタープラン改定のための市民アンケート調査(無作為抽出2,000件)にご協力いただいた方を対象に、改定に向けた意見収集だけでなく、地域のまちづくりの担い手を育成することを目的に、市民懇談会(ワークショップ)を実施しました。

また、実施した内容については、「まちづくりカフェ・ニュース」を作成して、参加者や市民モニターなどへ送付しました。

回	日程	主な内容	参加	
1	平成27年1月25日(日)	<ul style="list-style-type: none"> ミニ講演「市民が主役のまちづくり」(まちづくりプランナー 野口和雄氏) 市民アンケート調査結果 意見交換(次回に議論したいテーマ等) 	25名	
2		平成27年2月14日(土)	意見交換(前回に出した議論したテーマごとに)	27名
3		平成27年2月28日(土)	意見交換(市民としてまちづくりに関われること)	22名
4	平成27年7月11日(土)	<ul style="list-style-type: none"> マスタープラン改定の取組状況報告 意見交換(小平での暮らし方、拠点ごとのまちのあり方について) 	12名	
5		平成27年9月26日(土)	意見交換(小平の魅力について、魅力を活かした暮らし方について)	11名
6	平成27年11月14日(土)	<ul style="list-style-type: none"> マスタープランの概要/アンケート結果速報 これまでのカフェの振り返り 意見交換(お住まいの地域について、次回のまちあるきで行きたい場所について) 	18名	
7		平成27年12月12日(土)	<ul style="list-style-type: none"> まち歩き(東部と西部) まち歩きの振り返り 	19名
8		平成28年1月16日(土)	意見交換(今よりもっと良い場所にする・魅力を高めるアイデアを考える)	19名
9	平成28年9月10日(土)	<ul style="list-style-type: none"> 小平市の景観について 意見交換(日頃気になっていること、次回まちあるきで聞いてみたいこと) 	12名	
10	平成28年9月24日(土)	<ul style="list-style-type: none"> まち歩き(にぎわいコースと農と自然コース) まち歩きの振り返り 	23名	
11		平成28年10月2日(日)	<ul style="list-style-type: none"> まちの見方について 意見交換(小平市で気に入っている場所、魅力を感じているところ) 	16名
12		平成28年10月23日(日)	<ul style="list-style-type: none"> 小平市の魅力的な暮らしを紹介する紙面の作成 発表 	16名

※開催時間は全て午前。

(参加者 延べ220名)



(3) まちづくりサロン

不特定多数の市民を対象に、マスタープラン改定の取組みなどについて知っていただき、今後のまちづくりやマスタープラン改定に関するご意見などをうかがう場として、オープンハウス形式による市民意見の収集を行いました。

	内容(趣旨)	日程	会場	来場者
1	①マスタープラン改定のPRパネル展	平成27年3月24日(火) 午前11時～午後3時	中央公民館	約50名
2		平成27年3月25日(水) 午前11時～午後3時	小川西町公民館	約30名
3		平成27年3月27日(金) 午前11時～午後3時	東部市民センター	約15名
4	②マスタープラン改定「中間まとめ」に関する説明及び意見収集 ※開催時間内に説明会を実施。	平成28年3月29日(火) 午後2時～午後7時	中央公民館	約50名
5		平成28年3月30日(水) 午前10時～午後3時	中央公民館	約40名
6		平成28年4月6日(水) 午後4時～午後8時	総合体育館	約20名
7		平成28年4月7日(木) 午後1時～午後5時	東部市民センター	約15名
8	③地域別構想策定に向けた意見収集 ※開催時間内にワークショップを実施。	平成28年6月30日(木) 午後3時～午後7時	なかまちテラス	約10名
9		平成28年7月6日(水) 午後3時～午後7時	中央公民館	約30名
10		平成28年7月19日(火) 午後3時～午後7時	東部市民センター	約10名
11		平成28年8月9日(火) 午後3時～午後7時	小川西町公民館	約20名
12	④素案に関する説明 ※開催時間内に説明会を実施。	平成28年12月22日(木) 午後2時～午後5時	なかまちテラス	約10名
13		平成28年12月26日(月) 午後5時～午後8時	総合体育館	約10名
14		平成29年1月11日(水) 午後4時～午後8時	中央公民館	約30名

(来場者数 延べ約340名)



中央公民館



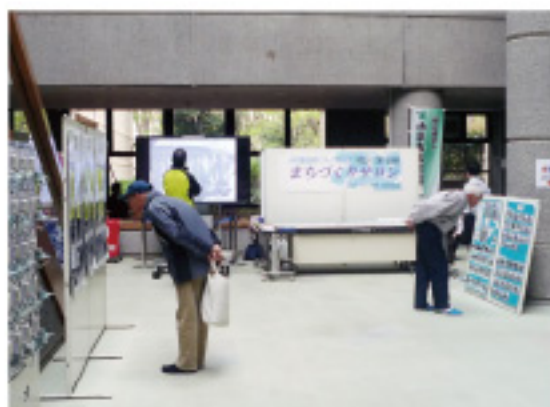
東部市民センター



西部市民センター



なかまちテラス



総合体育館

(4) まちづくりフォーラム(講演会)

	日程	内容	会場	来場者
1	平成27年8月29日(土)	大妻女子大学 松本暢子 教授 「小平市都市計画マスタープラン改定にあたって」	中央公民館	41名
2	平成27年10月17日(土)	東京経済大学 羽貝正美 教授 「自治と参加・協働によるまちづくり」	中央公民館	23名
3	平成28年8月27日(土)	都市プランナー 野口和雄氏 「市民による'まちづくり」 法人格成城自治会会長 中川清史氏 「世田谷区 成城自治会におけるまちづくりの取組み」	福社会館	14名



松本欄子 教授



羽貝正美 教授



野口和雄氏 中川清史氏

(5) 中間まとめ意見募集

期 間：平成28年3月25日～平成28年4月25日

応募件数：28件(男性 14件/女性 10件/無記名 4件)

(6) 出張まちづくりサロン(出前講座)

	内 容	日 程	会 場	参加者
1	「中間まとめ」の説明	平成28年4月18日(月)	学園西町地域センター	6名
2		平成28年4月19日(火)	小川公民館	6名

(7) 市民モニター

市民アンケート調査の際に、市民モニターの登録希望をした方、及びまちづくりカフェの参加希望者などを対象に、随時「まちづくりカフェ・ニュース」などを送付し、必要に応じて、まちづくりに関するご意見をうかがいました。

回	送付時期	主な内容
1	平成27年2月	平成26年度市民アンケート調査の結果に対する意見収集等
2	平成28年3月	「中間まとめ」に対する意見収集
3	平成28年12月	「素案」に対する意見収集

(対象者 201名)

(8) 市内中学校アンケート

市内の中学校で、職員による小平市のまちづくりに関するお話の後、中学生向けの簡単なアンケート調査を実施した。

① ご協力いただいた中学校

回	実施日	実施校
1	平成27年10月8日(木)	小平第二中学校
2	平成27年10月10日(土)	小平第三中学校
3	平成28年11月25日(水)	上水中学校

② アンケート結果概要 調査数：302件

問 い	概 要
あなた自身のことについて	
性別	「女性」45.7% 「男性」44.4%
小平市に住み続けたいか (居住意向)	「わからない(どちらとも言えない)」53.3% 「住み続けたい」34.1% 「住み続けたくない」12.3%
「住み続けたい」と思う理由	「小平の自然環境が好き」が53.3%で最も多い。 その他、「災害や犯罪の心配が少ない」が39.8%、「長年住みなれて愛着がある」が33.0%、「交通の便がよい」が28.2%と多くなっている。
「住み続けたくない」と思う理由 (自由記述)	店や施設が充実していないから、他の場所に住んでみたい、といった意見がある。
住んでいるまちについて、 どのように思っているか	「自然豊かである」という認識が最も強い。 「図書館などの学べる場所やホールなどの集まれる場所がある」や「電車やバスなどの交通が便利である」、「地震などの災害に強そう」、「公園や広場がある」についても認識が強い。 一方、「駅のまわりに、お店などがあってにぎわっている」という認識はあまりもたれていない。
電車に乗るときによく使っている駅	「国分寺駅」25.8% 「花小金井駅」21.9% 「小平駅」18.2% 「武蔵小金井駅」10.9%
あなたの買い物やお出かけについて	
お休みの日(学校や部活動が休みの日)に、家族や友達と出かけるとき、どこへ行くことが多いか	(家族と出かけるとき) 場所は、「国分寺」や「武蔵村山」、「立川」、「吉祥寺」など近隣の都市が多い。 交通手段は「自動車・バイク」が最も多い。
その場所まで行くために、よく使う交通手段は何か	(友達と出かけるとき) 場所は、家族とでかけるときと同様に「国分寺」や「立川」、「吉祥寺」など近隣の都市が多い。 交通手段は「自転車」や「電車」が多い。
将来の小平市について	
約20年後に、小平市はどのようなまちになっていたらよいと思うか	「水や緑の豊かな自然環境が守られるまち」(46.4%)や「買い物がしやすいまち」(38.4%)、「住みやすい快適な生活環境が維持されるまち」(37.7%)が重視されている。 その他、「地震や災害に強いまち」(30.1%)、「道路、公園、病院などの生活に必要な施設が整っているまち」(29.1%)についても重視されている。

自由記述

もし、小平市長になったら、小平市をどのようなまちにしたいか

お店やショッピングモール、映画館をつくる、といった買い物する場所や娯楽施設を充実させたいという意見が多い。
その他、遊べる公園を増やす、自然をなるべく壊さない、交通が便利なまちにする、といった意見が多い。



小平第二中学校



小平第三中学校



上水中学校

(9) 駅前チラシ配布

実施時期	配布駅及び部数	内容
平成28年3月	花小金井駅、小平駅 小川駅、東大和市駅 各100部	中間まとめの意見募集及びまちづくりサロンの周知
平成28年12月	花小金井駅、一橋学園駅 鷹の台駅 各100部	パブリックコメント及びまちづくりサロンの周知



花小金井駅



小川駅

(10) パブリックコメント

①実施結果の概要

実施期間	平成28年12月15日(木)から平成29年1月13日(金)
応募者数	52名
	属性 男性 33名 / 女性 18名 / 団体代表 1名
	年齢層 10代 0名 / 20代 2名 / 30代 2名
	40代 10名 / 50代 5名 / 60代 11名
	70代 9名 / 80代 2名 / 90代 1名
	無記入 10名 (団体含む)
提出の方法	ホームページ 16名 / 電子メール 4名 / ファクシミリ 3名 郵送 21名 / 持参 8名

②意見等の内容別件数

意見の種類		件数
対象(総件数)		152件
内 訳	第1部 はじめに	
	第1章 小平市都市計画マスタープランとは	5件
	第2章 小平市のまちの現況	3件
	第2部 まちづくりを取り巻く状況と見直しの視点	
	第1章 小平市のまちづくりの経緯	2件
	第2章 小平市のまちづくりを取り巻く状況	1件
	第3章 マスタープランの見直しの視点	7件
	第3部 全体構想と実現に向けた取組	
	第1章 全体構想	9件
	第2章 まちづくりの目標に基づく戦略	12件
	第3章 まちづくりの方針〈部門別〉	40件
	第4部 地域別構想	35件
	第5部 都市計画マスタープランの推進	15件
	その他	23件

4. まちづくりカフェの概要

まちづくりカフェは、平成26年度及び平成27年度に実施した無作為抽出による市民アンケート調査(各2,000件)の回答者の内、参加を希望した方を対象として開催した市民懇談会(ワークショップ)です。開催ごとに作成した「まちづくりカフェ・ニュース」を基に、まちづくりカフェの概要をまとめました。

(1) 平成26年度

第1回

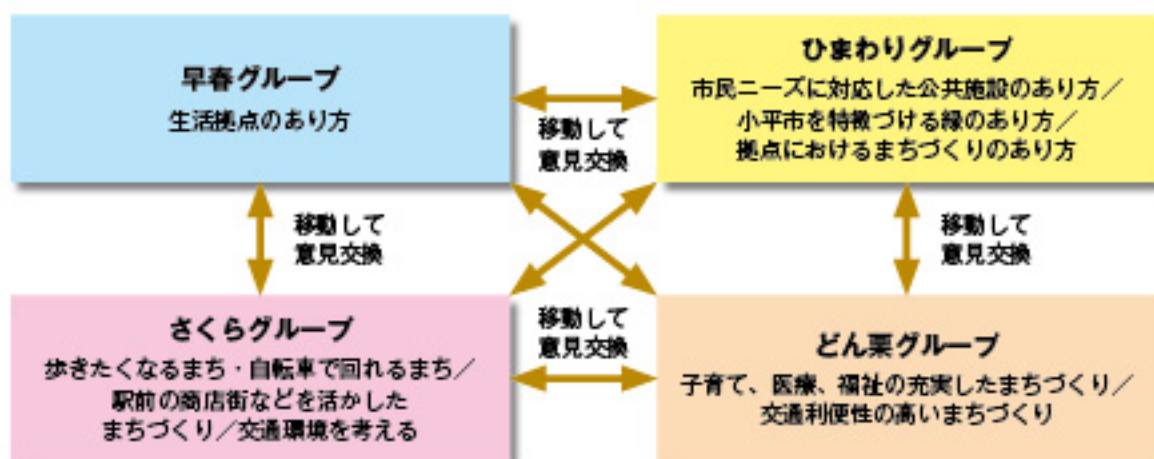
参加者の誕生日順に4つのグループに分かれて、グループ名を決めた後、アンケート結果に対する意見交換や次回に議論したいテーマ等について話し合いました。



第2回

第1回で話し合っただけ決めたテーマについて各グループで意見交換した後、関心のあるテーマのグループに移動して再度話し合いを行う「ワールドカフェ」形式で議論を進めました。

《各グループのテーマ》



第3回

前回までの議論を踏まえて、市民としてまちづくりに関われることについて意見交換しました。

市民としてまちづくりに関われることのアイディア

- ・コミュニティを強化する
- ・大学や企業を巻き込む
- ・玉川上水などのグリーンロードの花をもっと増やし、市民が育てるようにする
- ・子どもが農地に触れる機会を増やしたり、市民農園として解放したりする
- ・学生起業の促進のため、空き店舗情報などをネットで発信する
- ・グリーンロードで武蔵野美大の作品展示のようなイベントをより拡大する
- ・自治会が中心となって空き家などを使い、子どもから高齢者まで様々な世代の居場所を作る
- ・市内の自治会同士、また高齢クラブなど他団体と情報交流をする など



(2) 平成27年度

第4回

小平での「暮らしの将来像」と7つの拠点ごとのまちのあり方について意見交換をしました。

● 暮らしの将来像

将来も安全安心なまち／身近で日常の買い物ができるまち／自転車で安全・安心に移動できるまち／安心して子育てができるまち／地域のつながりがあるまち など

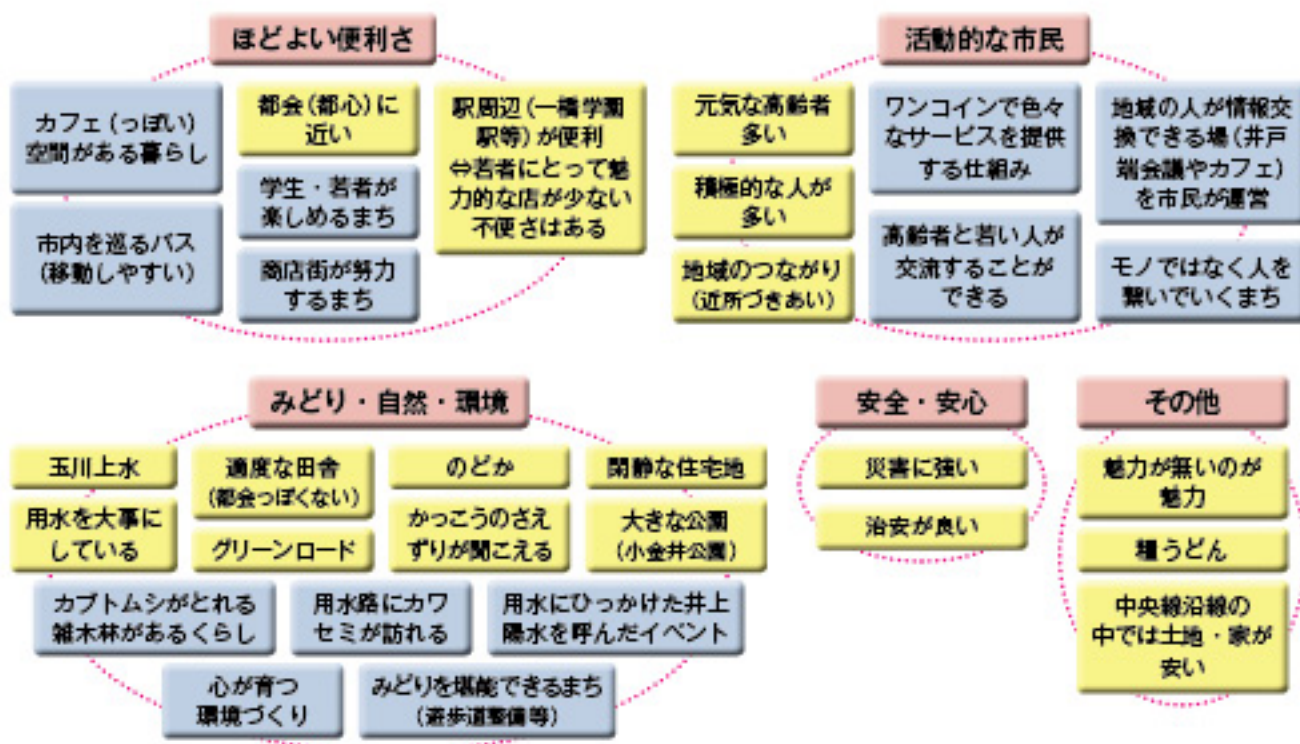
● 7つの拠点ごとのまちのあり方

花小金井駅	東部はバス路線が廃止になったところもあり、不便な面がある など
小平駅	若い人に来てもらえるまち／グリーンロードをイベント時にもっと活用すべき など
新小平駅・青梅街道駅	新小平駅へのアクセス性はよくない／拠点となる施設もあった方がよい など
一橋学園駅	利用したいお店等はまだまだあるが、道路が狭く行きにくいので結局利用しない など
小川駅	再開発事業には期待したいが、商店街が盛り上がるような配慮をしてほしい など
鷹の台駅	子どもや学生は使用するが、駅周辺のお店に入る人は少ない など

第5回

小平の魅力と、その魅力を活かした暮らし方について意見交換をしました。

(主な意見の概要) ※黄の付箋は「魅力(特徴)」、青の付箋は「魅力(特徴)を活かした暮らし・まち」



第6回

今回のまちあるきに向けて、行きたい場所について意見交換し、グループ1(小平西部グループ)は、小川駅・鷹の台駅周辺や生物が生息している樹林等を、グループ2(小平東部グループ)は、一橋学園駅周辺等をフィールドワークの候補地としました。

第7回

2つのグループに分かれて、マイクロバスで移動しながら、小平市内のまちあるきを実施しました。

西部グループでは、市街地再開発事業の検討が進んでいる小川駅周辺や、青梅街道南側の通称“たから道”、鷹の台駅周辺などを巡りました。

東部グループでは、一橋学園駅周辺の商店街や、花小金井駅周辺を中心に巡りました。

まちあるきの後は、中央公民館に戻って、気になったことや感じたことについて、意見交換しました。

■小平西部グループ

○たから道

- ・青梅街道のすぐ裏側にこんな道があるなんて感動した。観光スポットにもなるのではないかな。

○細長い地割と細長い道路

- ・武蔵野新田の名残である短冊型の細長い地割の話聞いて、なぜこのあたりの道路が細長いのかを知った。
- ・災害時にはこの細長い道路がやや不安。

○進む道路整備と減る農地

- ・西部は、思ったよりも道路ができて、まちが変わっていると思った。新たな人の動きが出てくると思う。
- ・農地が減少していると思った。どんどん“プチ田舎”ではなくなるのではないかと心配もある。

○玉川上水沿い

- ・鷹の台駅前の商店街は確かに閉まっている店もあるが、少しずつ素数なカフェやパン屋等が増えている気がする。こういった場所を上手く活かした観光ができれば良い。
- ・グリーンロードは部分的にでも木材チップを敷けばもっと歩きやすくなる。 など



■小平東部グループ

○あかしあ通り

- ・あかしあ通りはメインストリートなのに何も無いのは寂しい。

○一橋学園駅周辺

- ・歩道が狭く、電柱や看板が歩道に出ていて歩きにくい。路上駐車も多い。
- ・小平は平らだからその地形を生かして自転車に配慮すべきではないか。
- ・建て替えのときにセットバックしてもらうのはどうか。 など



第8回

フィールドワーク等を参考に、地域の魅力を高めるアイデアを考え、グループごとにまちの魅力を高めるアイデアを提案しました。



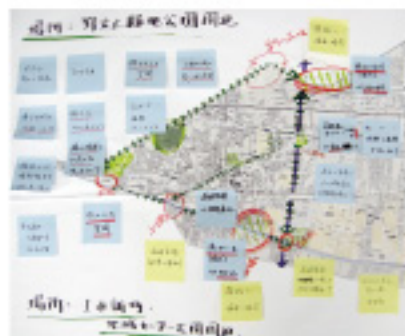
■小平西部グループ1

～テーマ～

“新たな西のグリーンネットワーク～みどりでつながる人と人”

西側だけでもたくさんの緑の拠点があり、これらを上手につないで新たな西のグリーンネットワークをつくり、人々が集い、交流し、活用できる仕掛けを考えよう

【場所】 野火止緑地公園周辺や上水新町・地域センター公園周辺を核とした公園・緑地



■小平西部グループ2

～テーマ～

“たからの細道・散歩道”

グリーンロードをみどりの幹線、たから道や用水路をみどりの毛細血管としてネットワークしていく。

【場所】 たから道、用水路、雑木林など



たから道、用水路、雑木林によるみどりの「毛細血管ネットワーク」

■小平東部グループ

～テーマ～

“あかしあ通りグリーンロード化プロジェクト”

あかしあ通りを花いっぱいのにし、グリーンロードとつなげて周遊したくなる魅力ある道にする。

【場所】 小平駅前～あかしあ通り



(3) 平成28年度〈景観セミナーとの合同開催〉

第9回

市の鳥瞰図や昔のまちなみの写真等を見ながら、小平市の景観について学んだ後、日頃小平で気になっているところについて意見を出し合いました。



第10回

にぎわいコースと、農と自然コースに分かれて、マイクロバスで移動しながら、まちあるきを行いました。各コースの途中では、農業を営む方やお店を営む方など、地域でご活躍されている方々にお話をうかがいました。

農と自然コース



(↑)元小平市史編さん担当に小平市の歴史を解説いただきながら回りました。



(↑)「たから道」の使い方や今後の農業のことについて伺いました。(小川町1丁目)

にぎわいコース



(↑)商店街の活性化に向けたアイデアや課題、玉川上水の風景の魅力などについて伺いました。(たかの台)



(↑)手仕事のワークショップなど、地域の交流の場につながる取組みなどについて伺いました。(学園東町1丁目)



(↑)あじさい公園や小川用水とマッチしたお店づくりについて伺いました。(美園町1丁目)



(↑)ご家族での日々の営みから、農家さん全体が抱える難しさまで、ご説明いただきました。(天神町2丁目)

第11回

話し合いの前に、市役所の屋上へ移動し、市内を高い位置から観察しました。その後、中央公民館に戻って、参加者に事前に準備してもらった市内の好きな場所の写真を紹介し合いながら、どういうところに魅力を感じているのか意見を出し合いました。

グループ1では、玉川上水やたから道近くを流れる水路に関心を寄せる人が多くいました。

グループ2では、水に関する場所がたくさん出されました。小平市の特徴として、水に親しめる環境があり、そういう暮らしができることが魅力的だという意見がありました。



第12回

小平市の魅力的な暮らしを紹介する、写真とキャッチコピー、解説文を参加者それぞれが考えました。考えた案は、並びをみんなで考え、グループで一つの作品にしました。趣向をこらした、小平らしさの中にも個性あふれる作品ができました。



■グループ1

参加者が作成した紙面の一部（吹き出しは参加者から出た意見）

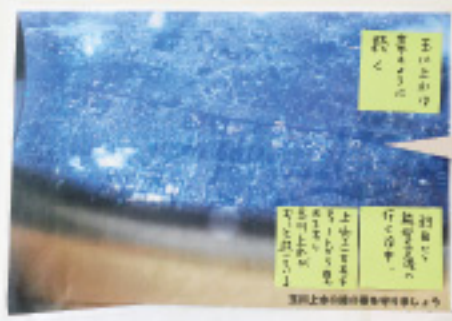


小平市の緑の魅力は、
中に入って散策した
りできるところ。

すぐに入れる緑を走る



小さい町の小さい賑わい



飛行機の上空から
見る玉川上水の緑
の帯は任巻！

玉川上水は帯のように続く



身近な水辺



美大のある暮らし
こだいらをArtでJackせよ！



用水+農地のあるBiotopeの風景

5. 用語集

あ行

●空き家等

建築物又はこれに附属する工作物であって居住その他の使用がなされていないことが常態であるもの及びその敷地(立木その他の土地に定着する物を含む。)をいいます。

●アダプト制度

アダプトとは養子縁組という意味で、市が管理する公共空間としての公園、緑地、緑道及び用水路について、市と地域住民とが協働して清掃、緑化などの活動を行う制度です。

●一団地の住宅施設

50戸以上の住宅施設をはじめとして、道路や公園、学校などの公益施設の敷や位置などが都市計画で指定されており、定められた用途以外には使えないことになっています。

●延焼遮断機能

震災などによる火災の延焼を遮断する機能で、道路、河川、鉄道、公園などの都市施設や近接する耐火建築物などにより構成される帯状の不燃空間を延焼遮断帯といいます。

●沿道サービス型施設

交通の利便性を活かして、幹線道路の整備に伴い駐車場を併設している商業施設などです。

●援農ボランティア

農業に関心のある方などが、後継者不足や高齢化による人手不足に悩む農業者を無報酬で支援するボランティアのことです。

●オープンスペース

公園緑地、広場、河川、農地などの建物が建っていない広がりのある土地の意味です。

か行

●観光まちづくり

市では、「小平市観光まちづくり振興プラン」を策定し、「都会から一番近い プチ田舎」をキャッチフレーズに、市民以外の方の「訪れたい」気持ちを引き出し、小平市に住んでいる方が「住み続けたい」と思える、まちづくりに取り組む観光まちづくりを進めています。

●協働

市民、事業者、市などがそれぞれの役割や責任のもとで、できることを考え、相互に役割分担、連携を図りながらまちづくりに取り組むことです。

●建築協定

住宅地としての環境の維持増進などを目的に、対象となる区域の関係権利者全員の合意により建築物や構造、用途などのルールを建築基準法に基づく協定として結ぶものです。

●建築行政

建築基準法や関係法令に基づく確認・許可・認定などの事務を行うことです。

●公共施設マネジメント

人口減少・少子高齢化、施設の老朽化などを見据え、自治体経営の視点から総合的、統括的かつ長期的に、施設総量の適正化などを行いながら持続可能なサービスの実現に向けた取組みを行うことです。

●高度利用

道路、公園、広場などの公共の空気を確保する代わりに、周囲の地域より高層の建築物や容積率の高い建築物を認めて、土地の有効利用をすることです。

●小平市民等提案型まちづくり条例

本マスタープランに掲げる将来の都市像を実現するため、市民等、事業主及び市の責務を明らかにするとともに、参加と協働によるまちづくりを推進するために必要となる基本的な事項を定め、もって個性や魅力のある住みよいまちづくりの推進を図ることを目的とした条例です。

●コミュニティバス・コミュニティタクシー

鉄道や路線バスなどの基幹交通を補う、地域の需要に応じたコンパクトな生活交通手段で、市では、コミュニティバスとして「にじバス」とコミュニティタクシーとして「ぶるべー号」を運行しています。

●コンパクト・プラス・ネットワーク

人口減少・高齢化が進む中、特に地方都市において、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業などの生活機能を確保し、高齢者が安心して暮らせるよう地域公共交通と連携した、コンパクトなまちづくりのことです。

さ行

●再生可能エネルギー

有限で枯渇の恐れがある化石エネルギー等に対し、自然環境のなかで繰り返し起こる現象から取り出すエネルギーのことで、太陽光、風力、地熱、バイオマスなどを利用したものがあります。

●市街地再開発事業

都市再開発法に基づき、土地の高度利用によるオープンスペースの創出、良好な生活環境を備えた都市型住宅の供給や、都市機能の更新を図るとともに、不足している道路・緑地などの公共施設を計画的に整備し、安全かつ快適な生活空間を創出する総合的なまちづくり事業です。

●自転車ナビマーク

自転車の通行部分と進行方向を路面に表示し、車道の左側通行を促すものです。

●シビックゾーン

都市の中心機能（行政機能など）が集積し、市民が多く集まる場所のことです。

●自立分散型のエネルギー

利用する地域で発電を行うことでエネルギーロスを少なくするとともに、災害などが発生しても安全・安心で、安定的な供給を可能とするエネルギーのことです。

●生産緑地（制度）

農地の持つ環境や防災などの機能が、無秩序な市街化により失われることで、都市の環境の悪化や計画的なまちづくりに支障となることから、農業と調和した良好な都市環境の形成を図るため農地を保全する制度です。

●生物多様性

生物生息空間または生態系における生物の種数及び個体数の多さや生物が分化・分岐してさまざまに異なることで、遺伝子の多様性、種の多様性、生態系の多様性の三概念をもちます。

た行

●たから道

青梅街道沿いの用水路の南側に、独特の呼び方で「たから道（たからみち）」という空間があり、かつては、各家の庭先を結ぶ道として機能していました。

●短冊型農地

青梅街道や五日市街道に沿って新田開発が行われ

たため、東西に走る街道に対して直角に、南北に細長い地割りが大きな特徴となった農地で、「短冊型農地」や「短冊状農地」と呼ばれています。宅地化の進んだ現在でも、このような土地の名残が残っています。

●地域包括ケアシステム

「医療・介護・介護予防・住まい・生活支援」が、身近な地域で一体的に提供される仕組みのことです。

●地区計画

地区の課題や特徴を踏まえ、住民と市が連携しながら、地区の目指すべき将来像を設定し、その実現に向けて都市計画に位置づけて、まちづくりを進めていく手法です。

●長期優良住宅

住宅を長期にわたり使用することにより、環境への負荷を低減するとともに、建替えに係る負担を軽減するなど、長期にわたり良好な状態で使用するための構造及び設備について講じられた優良な住宅のことをいいます。

●超高齢社会

高齢化率が21%を超えた状態であり、小平市も超高齢社会に突入しています。

●低炭素型社会

地球温暖化問題に対処するため、省エネルギーなどの取り組みが進み、二酸化炭素などの温室効果ガスの排出が抑えられた社会のことです。

●特別緑地保全地区

都市緑地法により都市計画区域内において、樹林地、草地、水辺地等の地区が単独もしくは周囲と一体となって、良好な自然環境を形成しているもので、以下に該当する緑地を定めたものです。

1 無秩序な市街地化の防止や公害または災害の防止等のため必要となるもの。2 伝統的または文化的意義を有するもの。3 風致または景観が優れている地区や動植物の生息・生育地として適正に保全する必要がある、かつ、住民の健全な生活環境を確保するため必要なもの。

●都市基盤

都市のさまざまな活動を支える最も基本となる施設で、道路、鉄道、河川、上下水道、エネルギー供給施設、通信施設のほか、学校、病院、公園なども含まれます。

●都市計画区域の整備、開発及び保全の方針

都市計画法第6条の2に基づき、都道府県が広域的見地から定める都市計画の基本的な方針です。

●都市計画道路・都市計画公園

都市計画法第11条に掲げられている道路、公園や、水道、下水道などの都市施設に関して、その名称・位置・規模などが都市計画に定められたものです。

●土地区画整理事業

土地区画整理法に基づき、整備が必要とされる区域において、土地所有者等から所有する土地の面積や位置などに応じて、少しずつ土地を提供してもらい、これを道路・公園などの公共施設として整備し、併せて土地の利用増進を図り、健全な市街地を形成する総合的なまちづくり事業です。

は行

●バリアフリー

高齢者や障がい者が社会生活を営む上での障壁（バリアー）をなくすことで、段差解消など物的なことから意識上のもの、また制度的なものの解消も含まれます。

●風致地区

都市内の自然環境を維持し、樹林地などの良好なみどりの保全を図る地区を都市計画で定めるものです。

●防火地域・準防火地域

都市計画法に基づき、主に商業地など、建築物の密集している市街地において、建築物の構造を制限することによって不燃化を図り、市街地における火災の危険を防ぐために指定されています。指定された地域では、一定規模以上の建築物は耐火又は準耐火建築物とするなどの規制があります。

●ポケットパーク

道路整備や交差点の改良によって生まれたスペースや街中のわずかなスペースを利用して作った小さな公園のことです。

●ボトルネック踏切

自動車ボトルネック踏切と歩行者ボトルネック踏切の二種類からなり、自動車と歩行者の交通量が一定以上あることで、渋滞や歩行者の滞留が多く発生している踏切のことです。

ま行

●みどり

本マスタープランで「みどり」と表記しているものは、雑木林、屋敷林、農地、用水路、河川、住宅地の植栽地、公的空間の植栽地などの緑地空間に加えて、良好な景観地、歴史性、市民生活との関わりなど、多くの価値観を持つ概念として捉えています。

●無電柱化

都市の防災機能の強化、安全で快適な歩行空間の確保、良好な都市景観の創出を図るため、電線を地下に埋設するなどの方法により、電柱又は電線の道路上への設置抑制や、道路上の電柱又は電線を撤去することです。

や行

●優先整備路線

都市計画道路を計画的、効率的に整備するため、都区市町が平成28年3月に策定した「東京における都市計画道路の整備方針（第四次事業化計画）」において、平成28年度から平成37年度までの10年間で優先的に整備すべき路線に選定された都市計画道路です。

●ユニバーサルデザイン

障がいの有無、年齢、性別、人種などに関わらず多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方です。

●用途地域

都市における住居、商業、工業などの土地利用は、種類の異なる形態が混在することで、互いの生活環境や業務の利便性が悪くなることから、都市計画により都市を住宅地、商業地、工業地などいくつかの種類に区分し、これを「用途地域」として定めています。

ら行

●連続立体交差化

鉄道を一定区間連続して高架化または地下化することで道路と立体化することです。立体化することにより、多数の踏切の除却や新たに交差する道路との立体交差を実現し、交通渋滞の解消や安全性の向上を図ることができます。

小平市都市計画マスタープラン

平成29年(2017年)3月 発行

編集・発行 小平市 都市開発部 都市計画課
〒187-8701 東京都小平市小川町2丁目1,333番地

電 話 042(346)9554

電子メール toshikeikaku@city.kodaira.lg.jp

表紙デザイン 深澤 公嗣

¥500